

「住まい等に関するアンケート調査」結果について

■調査の概要

- ・調査目的 被災された方々のお住まい等に関する意向を把握し、被災者の方々の生活再建のための基礎資料として活用させていただくとともに、本市の今後の復興に向けた参考資料とする
- ・調査主体 避難所運営委員会、町内会、仙台市
- ・調査地域 宮城野区、若林区内の津波により被害を受けた地域
- ・対象と方法 主に避難所の成人男女(学生を除く)を対象に、質問紙を用いた対象者本人による記述回収調査法
- ・有効回答 1,770 サンプル/配布数 2,903 (回収率61%)
- ・調査期間 宮城野区 平成23年5月5日(木)～5月9日(月)
若林区 平成23年5月6日(金)～5月10日(火)

■調査の結果(概要)

▼住まいに関する考え方

- ・特に被害の大きかった地域(概ね全壊～半壊)では、「可能な限り」もしくは「(国や自治体等からの財政的な支援などの)条件付きであるが」別の場所に移動したいと回答した方が約64%となっている。
- ・被害の大きかった地域(概ね半壊～一部損壊)では、もとの場所で生活したいと回答した方と、別の場所に移動したいと回答した方がほぼ半数ずつとなっている。
- ・浸水被害を受けた地域(概ね一部損壊)では、「可能な限り」もしくは「(国や自治体等からの財政的な支援などの)条件付きであるが」もとの場所で生活したいと回答した方が約80%となっている。

▼移転すると仮定した場合に考慮する条件

- ・全体的には「国や自治体からの財政的な支援」を望む割合が高くなっている。
- ・別の場所に移動したいと回答した方は、もとの場所で生活したいと回答した方と比較して、「防災性などの安全・安心」、「子どもの教育環境」を重視する方が多い。

▼住宅の再建方法について

- ・住宅を再建する場合、特に被害の大きかった地域(概ね全壊～半壊)では「住宅の建て替え」を、被害の大きかった地域(概ね半壊～一部損壊)では「住宅の建て替え」と「住宅の修理」を、浸水被害を受けた地域(概ね一部損壊)では「住宅の修理」をあげる方がそれぞれ多く、被害状況に応じた結果になっている。
- ・特に被害の大きかった地域では、公営住宅・復興住宅にも一定の需要がある。

※復興住宅：被災者向けに県や仙台市などの被災自治体が設ける公営住宅

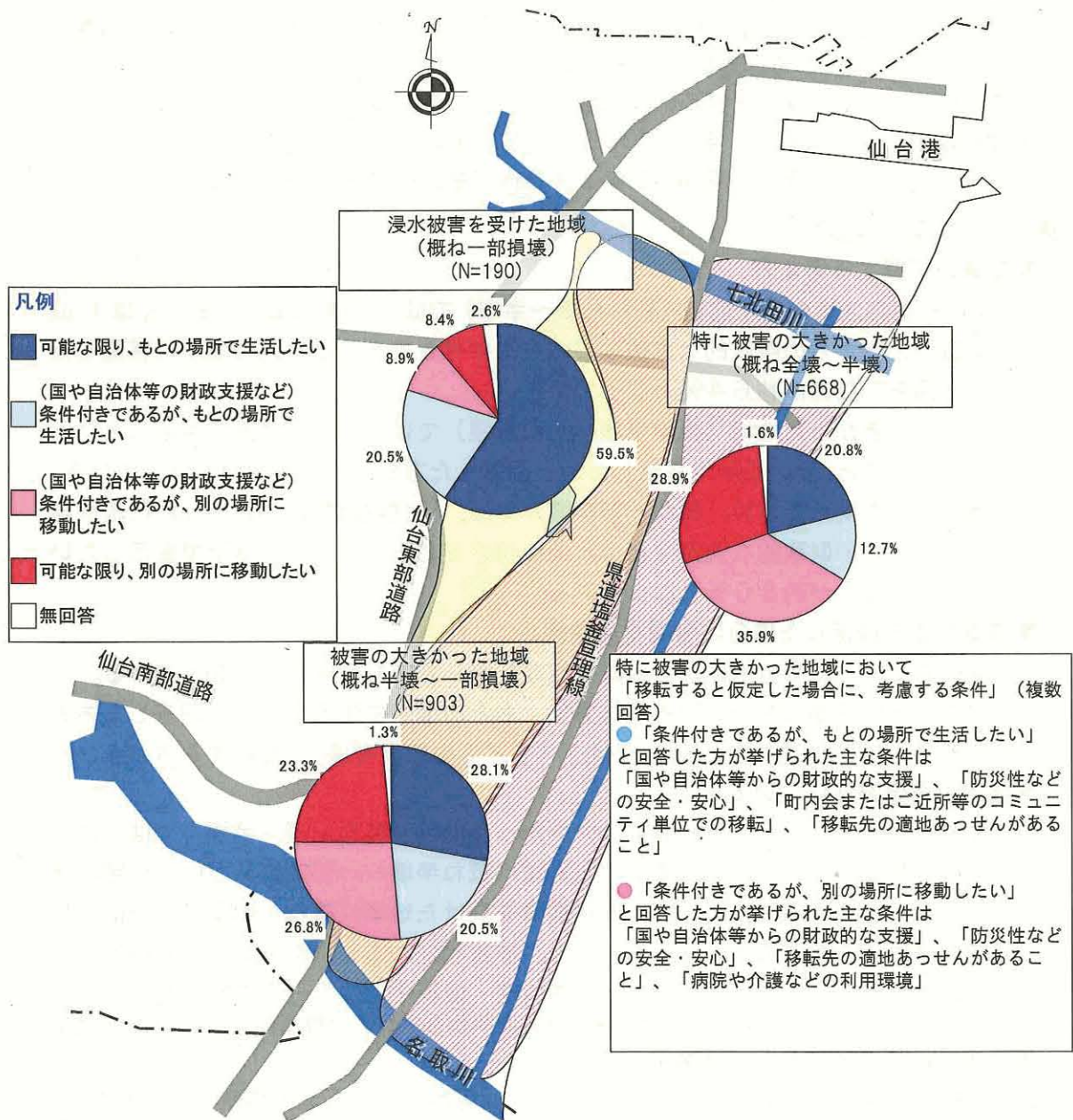
▼住まいに関する考え方(職業別)

- ・農業を営んでいる方、特に専業農家の方は、「可能な限りもとの場所で生活したい」と考えている方の割合が高い。
- ・内職・パート、無職の方は、「可能な限り」もしくは「(国や自治体等からの財政的な支援などの)条件付きであるが」別の場所に移動したいと考えている方の割合が高い。

▼主な自由意見

- ・ 経済的支援を早急に希望する
- ・ 土地利用について、早急に方針を決定してほしい
- ・ 海岸防災林や堤防（幹線道路のかさ上げも含む）などの防災施設を早急に整備してほしい
- ・ 仮設住宅へ早期に入居できるようにしてほしい
- ・ 宅地や農地にあるがれきを早期に撤去してほしい

■調査の結果



住まい等に関するアンケート調査

本市に未曾有の被害をもたらした東日本大震災から約 50 日余りが経過しました。

津波等により大きな被害を受けた東部地域の集落や住宅地にお住まいの皆さまについては、今なお避難所での不自由な生活を余儀なくされており、本市では、生活環境の改善や仮設住宅の整備に取り組んでおります。同時に、一日も早い復興のまちづくりを進め、皆さまが安心できる生活を取り戻し、再生に向けて歩みを進めることができるよう検討を進めているところです。

今後のまちづくりにあたっては、生活される方々の安心・安全の確保を最優先に考えるとともに、被災された皆様からご意見をうかがいながら、以下の3つの基本的な考え方のもと、検討してまいります。
＜本市の3つの基本的な考え方＞

- 津波対策として、国や宮城県と連携し、海岸部へ防波堤や防潮林等による海岸保全施設の整備とあわせて、防災機能を高めた公園や避難施設等の整備について検討します。
- 上記の防災対策とあわせて、安全に暮らせる地域の生活環境を確保するため、コミュニティに配慮した、総合的な安心・安全のまちづくりについて検討します。
 - ・海岸線から近く、家屋が流失・全壊する等、特に甚大な被害のあった地域では、より安全な西側地域への集団移転等について検討します。
 - ・浸水被害のあった市街地や集落等の地域では、家屋の被災状況等も踏まえながら、より安全な地域への移転や現位置での防災性に配慮した再建等について検討します。
 - ・安全性を確保するために必要な地域では、住宅の建築を規制するなど一定の建築制限について検討します。
- 津波で浸水した東部地域の農地では、がれきの撤去を早期に行い、用排水路や排水機場等の復旧を進めるとともに、本市の農業生産の拠点として、より生産性の高い農地への再生について検討します。

【調査の目的】

この調査は、被災された方々のお住まい等に関する意向を把握し、被災者の方々の生活再建のための基礎資料として活用させていただくとともに、本市の今後の復興に向けた参考資料とすることを目的としています。調査結果についてこの目的以外に使用することはありません。

※今回は、最初のアンケート調査になりますが、今後、さらにご説明、アンケート、意見交換を実施してまいりますので、よろしくお願いいたします。

このアンケートに関するご質問等については、下記の担当までお願いいたします。

仙台市震災復興本部震災復興室 (TEL 022-214-8586)

住まい等に関するアンケート調査

この調査は、本市東部地域で被災された方々の住まい等に関するご意向を把握するものです。全ての皆さま（未成年・学生は除く）にご記入をお願いします。

ご記入者名	
被災前のご住所	
避難所にお住まいでない場合は現住所	

<質問事項>

(年代について)

質問1 あなたの年代について、あてはまるもの一つに○印をつけてください。

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70代以上

(お仕事について)

質問2 被災前のあなたのご職業について、あてはまるもの一つに○印をつけてください。ただし、兼業でお仕事をされている場合は、主な職業としてあてはまるもの二つに○印をつけてください。

1. 農業（専業農家） 2. 農業（兼業農家） 3. 農業（農産物加工） 4. 漁業（漁師）
5. 漁業（水産加工） 6. 旅館、民宿 7. 商店 8. 工場（経営者）
9. 他の個人経営 10. 公務員 11. 会社員、団体職員 12. 内職、パート
13. 無職 14. その他（)

(お住まいや土地について)

質問3 被災前のお住まいについて、当てはまるもの1つに○印をつけてください。

1. 持ち家（戸建て） 2. 持ち家（マンション）
3. 賃貸住宅（戸建て、マンション、アパートなど）
4. その他（)

質問4 現在、世帯に勤労収入はありますか。当てはまるもの1つに○印をつけてください。

1. 収入がある。 2. 収入はない。

質問5 お住まいの場所に対する考え方について、当てはまるもの1つに○印をつけてください。

1. 可能な限り、もとの場所で生活したい。
2. 条件付きであるが、もとの場所で生活したい。
3. 可能な限り、別の場所に移転したい。
4. 条件付きであるが、別の場所に移転したい。

(今後の街の復興について)

質問 8 復興に向けて必要になることなど、ご自由に意見をご記入ください。

◎調査へのご協力ありがとうございました

このアンケートに関する質問等については、下記の担当までお願いいたします。

仙台市震災復興本部震災復興室 (TEL 022-214-8586)